

特集序言

「脂質の機能性等に関する最近の研究Ⅱ」の 企画と編集にあたって

村野賢博・永尾寿浩

(日清オイリオグループ株式会社・大阪産業技術研究所)

脂質は身体活動の主要なエネルギー源や貯蔵エネルギー源であるだけでなく、細胞膜などの体の構成成分や生理活性物質の材料となり、さらに食のおいしさにも関連するなど、生体にとって重要な機能や役割をもちます。これまで、脂質の機能性について数多くの研究がされ、その成果は食品や医薬品、化粧品分野等で幅広く利用されています。

そこで、本誌の7月、8月号の2回にわたり、「脂質の機能性等に関する最近の研究」という連載の特集記事を企画しました。2回目である8月号の特集「脂質の機能性等に関する最近の研究Ⅱ」では、脂質の代謝や吸収、利用に関連した最新の研究について、最前線でご活躍する先生方の取り組みをご紹介します。

最近、中鎖脂肪酸やケトン体の優れた機能が注目されるようになり、特定の方々の栄養素・食事療法としての研究が進められています。スポーツの分野においても例外でなく、運動後の筋グリコーゲンの回復が促進されるなど、脂質によってアスリートのパフォーマンスが向上する可能性が示されつつあります。そこで、東京大学の寺田新先生には、スポーツ栄養における脂質の活用法に関する最近の知見について御解説いただきました。

山梨大学の望月和樹先生には、中鎖脂肪酸が単純にエネルギーとして代謝されるという働きにとどまらず、積極的に代謝経路を改善する働きを担っている可能性について御解説いただきました。

また、熊本リハビリテーション病院の吉村芳弘先生には、サルコペニア高齢者において、中鎖脂肪酸がエネルギーとしての役割に加え、食欲亢進の点からも身体機能の改善を促す可能性について、臨床応用の観点から研究事例を御紹介いただきました。

脂質には優れた機能性が有りますが、それらは腸管により吸収されないと、人は脂質の機能性を享受することができません。脂質の吸収には、糖やタンパク質などの水溶性物質とは異なる機構があります。島根大学の室田佳恵子先生には、中性脂質とリン脂質の腸管での吸収性について解説頂くとともに、弱い脂溶性を示すフラボノイド類の吸収代謝過程に関する研究をご紹介します。

本特集が、読者の皆様にとって有益な情報となるとともに、今後の研究、開発にお役にたてれば幸いです。末筆ながら、本特集にご理解をいただき、お忙しい中ご執筆をいただきました先生方に、深く感謝と御礼を申し上げます。